

令和7年度
地域まちづくり活動助成金
活動成果概要



令和8年6月
東大阪市 市民生活部
地域活動支援室

『地域まちづくり活動助成金』の概要

地域まちづくり活動助成金制度は、東大阪市の地域資源の活用や地域課題の解決に向けたまちづくり活動の活性化を図り、わがまちとして愛着と誇りの持てる市民主体の魅力ある地域づくりを目的としています。

	『アイデアを実現するための団体の土台づくり』 スタート支援部門	『事業の自立に向けてチャレンジ開始』 事業チャレンジ部門
対象団体	立ち上げて5年未満の団体	活動期間に制限なし
助成額	上限 20 万円	上限 70 万円
助成率	1回目：10分の10以内 2回目：10分の9以内 3回目：10分の8以内	10分の7以内
助成回数	3回まで	3回まで

○選考方法 いずれも「東大阪市地域まちづくり活動助成金審査会」において審査します。

部門	審査方法
スタート支援部門	書類審査・P Rスピーチと質疑応答
事業チャレンジ部門	書類審査・プレゼンテーションと質疑応答

○審査項目

審査項目	内容
公益性	事業の成果が不特定かつ多数の市民の利益につながる事業か
	地域資源の活用や地域課題の解決に向けた事業か
事業の実現性	十分な計画性があり、実現可能か
	事業内容が事業目的とあっているか
創意工夫・先駆性	申請団体ならではの特性を生かした創意工夫はあるか
	市民の視点からの発想を生かした創造的で魅力的な事業であるか
発展性	他への波及や継続・定着するための工夫があるか
	積極的な財源確保の取組みはあるか
	<スタート支援部門> 助成金を受けることで、団体の発展につながるか
	<2回目以降> 過去の活動内容や審査会意見等を踏まえ、改善や成長が見られるか
組織の健全性	設立目的は明確で、事業を実施する体制がつくられているか
	事業報告・事業決算書が作成され、情報公開に努めているか
協働性	事業実施にあたり、他分野の団体、企業や行政機関、教育機関など多様な団体・機関との連携をはかっているか
	事業実施後に、今後のネットワークにつながるか

令和7年度 交付事業一覧

	申請区分	団体名	事業名	ページ番号
1	スタート支援	Fun Wellbe	ママの心と身体の健康促進	1
2	スタート支援	東大阪「通いの場」連絡会	東大阪市内の各種「通いの場」ネットワークづくり事業	3
3	スタート支援	～ほ～むベ～す～	子育てと教育・地域社会について考える、映画上映会	5
4	スタート支援	グループつながる	若江岩田わいわいマルシェ	7
5	スタート支援	子どもも教員も育つまち東大阪	教員志望大学生および現職教員の研修及び個別サポート事業	9
6	スタート支援	ひだまり	ひだまり	11
7	スタート支援	チームオレンジ	チームオレンジ 親子がたのしめるイベントづくり	13
8	スタート支援	sotto.	アクティブラーニング推進事業	15
9	スタート支援	東大阪市ジャズ協会	東大阪に独自の芸術文化をつくる事業	17
10	スタート支援	まなびキッチン実行委員会	まなびキッチン	19
11	スタート支援	ひのもと	ひのもと	21
12	スタート支援	おもちゃとあそび tocotoco	おもちゃの広場	23
13	スタート支援	多文化共生サポート「結」	多文化共生社会を私の町にも！ やさしい日本語(伝わる日本語)の普及と地域間交流事業	25
14	スタート支援	東大阪市障害者文化スポーツ大会	東大阪市障害者文化スポーツ大会	27
15	事業チャレンジ	特定非営利活動法人音頭座がらく	河内音頭をはじめとする郷土芸能の伝承と活性化プロジェクト ～新しい形の祭り・盆踊り提案～	29
16	事業チャレンジ	はなのわ共感事業協働組合	地域共同体再構築「はなの輪」プロジェクト	31
17	事業チャレンジ	やどり木	子どもの居場所づくり ～孤育てを防ぎ地域とつなぐ～	33
18	事業チャレンジ	NPO法人よりはうす	地域の教育資源を活用した子ども達の学びを支える体制づくりの構築 (1)アサカツ！学んで食べよう！朝のよりはうす(朝の居場所づくり) (2)地域や社会を学ぶ！ワクワク学ぶ夏のよりはうす(東大阪アリーナの活用) (3)企業と学校をつなぐ！みんなが先生プロジェクト(起業家の街東大阪)	35

令和7年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

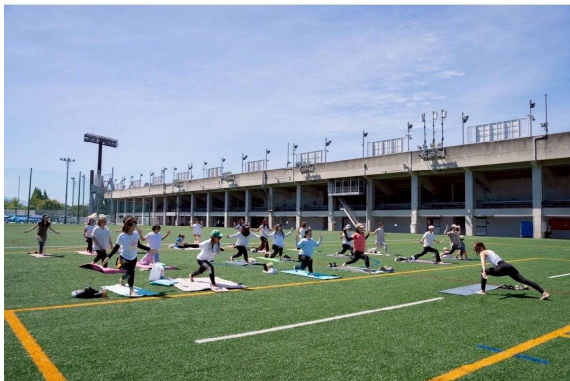
事業名	ママの心と身体 の健康促進				
団体名	Fun Wellbe				
助成区分	スタート部門 (<input type="checkbox"/> 1回目 <input checked="" type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目)				
助成金 交付決定額	165,000 円	助成金 確定額	119,263	総事業費	167,663

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	日々忙しく働く現代人、そして核家族や共働き世帯が増える中で、若い世代でも運動不足や健康問題、将来への不安から心の不調を抱える人が増えています。特に子育て世代は、子どもや家族の健康には意識が向いていても、自分自身を労わる時間や機会を持ちにくいのが現状です。こうした背景の中、自然の中で風や空気を感じながら行うパークヨガを通して、五感を使い「今の自分」に意識を向ける時間を持つことで、心と身体を整えるきっかけをつくります。また、同じ時間・空間を共有することで生まれる人とのつながりや温かさを感じられる場として、誰もが安心して参加できるコミュニティを育み、日常を少し豊かにする機会の創出を目的としています。		
2. 事業の内容	初心者でも気軽に身体を動かすきっかけづくりを目的とした屋外ヨガイベントを、参加しやすい低価格で実施します。3ヶ月に1回の継続開催とすることで、参加者が自身の心身の変化に気づき、健康意識の向上につなげます。屋外での実施により、自然環境の中で五感を活用しながら心身を整える機会を提供するとともに、屋内の少人数制教室と比較して参加の心理的ハードルを下げ、幅広い層の参加を促進します。また、当日の様子をカメラマンが撮影し、東大阪における子育てしやすい街づくりの一環として、ヨガを通じた健康づくりや地域コミュニティの取り組みを発信します。		
3. 事業評価 1 不十分だった 2 一定できた 3 十分だった	項目	評価点	
		不十分	十分
	① 実施時期（日時）はよかったか	1	③
	② 実施場所はよかったか	1	③
	③プログラムの内容はよかったか、事業目的と整合性がとれていたか	1	③
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	1	③
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	1	③
	⑥企画・準備はうまくいったか	1	③
⑦広報はよかったか	1	3	
⑧予算は妥当だったか	1	③	
4. 評価理由 ①～⑧の評価で 不十分だった理由 十分にできた理由	参加しやすい日時および屋外という開放的な場所で実施したことにより、子育て世代を含む幅広い層が安心して参加できる環境を整えることができました。プログラムについても、初心者でも無理なく取り組める構成とし、事業目的に沿った内容を提供しました。また、想定していた対象層の参加が得られ、概ね計画通りの参加人数を確保しました。実施体制についても関係者との連携を円滑に行い、当日の運営をスムーズに進行できました。さらに、事前準備を十分に行ったことで大きなトラブルなく安全に実施できました。広報については、SNS発信により新規参加者の獲得につながった一方、広告運用の難しさから当初想定していた広告予算を十分に活用できなかったため、今後の改善点とします。予算については適切に配分し、無駄のない運営ができたことから妥当であったと評価しています。		

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか 予定していた人数の方に参加いただき、毎回新しい方にも参加いただきました。内容についてもすごくスッキリした、自分一人の時間をとることの大切さを実感したなどもお声もいただきました。またSNSから新規の方が参加し、お友達も一緒にきて頂くなど、チラシだけでは難しい広がりを得ました。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由 参加しやすい価格や屋外での開放的な環境、SNSでの発信により、初心者や子育て世代の参加や新規獲得、参加者同士の広がりにつながったと考えます。【成果を十分にあげられなかった理由】 SNS広告の運用に課題があり、想定していた広告予算を十分に活用できず、さらなる周知に限界があったためです。</p>

6. 活動内容がわかる写真



<p>7. 次年度の事業継続 (いずれかに○をつけてください)</p> <p style="text-align: center;">助成金を活用して</p> <p>継続して実施する ・ <input checked="" type="checkbox"/> 助成金を活用せずに継続して実施する ・ 実施しない</p>	
<p>8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、助成金を活用しない理由、事業を継続しない理由</p> <p>来年度は助成金に頼らず自主運営として活動を継続します。一定の参加者数や継続的なニーズが確認でき、地域とのつながりも生まれていることから、安定した運営が可能と判断したためです。 今後はこれまでの実績や参加者との関係性を活かしながら、継続的に心身の健康づくりやコミュニティ形成に寄与していきます。</p>	
<p>9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等 (助成金を活用して事業を継続する場合のみ)</p>	

令和7年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	東大阪市内の各種「通いの場」ネットワークづくり事業				
団体名	東大阪「通いの場」連絡会				
助成区分	スタート支援部門 (<input type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input checked="" type="checkbox"/> 3回目)				
助成金 交付決定額	192,000 円	助成金 確定額	192,000 円	総事業費	254,092 円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	地域共生社会の実現のためには「住民自身が主体的に動く」ことが不可欠である。市内で活動中の子育て・障害者・高齢者の「通いの場」のつながりをつくり、それぞれの「通いの場」の充実や新たな「通いの場」の創設を目指すとともに、関係機関の協力も得て、様々な取り組みを展開していくネットワークづくりを目指している。	
2. 事業の内容	1) 「コミュニティコーピング体験会」4/29・5/31・10/30・12/14…計約50名参加 2) 「分野別交流会」障害(6/15)…20数名参加、こども食堂(11/29)…19名参加 3) 「大交流会」各団体・組織の活動紹介と情報・意見交換、8/31…41名参加・2/1…45名参加 4) 市内の「通いの場」と関係機関など200数十か所に「会報」などを送付(郵送・メールなど)×4回 5) 地域福祉ネットワーク推進会議への参加	
3. 事業評価	項目	評価点 不十分 ←=====→ 十分
	① 実施時期(日時)はよかったか	1 2 ③
	② 実施場所はよかったか	1 2 ③
	③ プログラムの内容はよかったか、事業目的と整合性がとれていたか	1 ② 3
	④ 受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	1 ② 3
	⑤ 実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	1 2 ③
	⑥ 企画・準備はうまくいったか	1 ② 3
	⑦ 広報はよかったか	1 ② 3
	⑧ 予算は妥当だったか	1 2 ③
4. 評価理由 ①～⑧の評価で 不十分だった理由 十分にできた理由	新たに始めた「分野別交流会(障害・こども食堂)」、昨年からは開催している「コミュニティコーピング体験会」は、地域包括支援センター職員などの参加もあり、関係機関との連携強化につながった。「大交流会」については、好評だった過去の内容を踏襲、参加者のつながりを強化することができた。ただ、継続した参加者が少なく、引き続き、広報についての配慮・工夫が必要である。地域福祉ネットワーク推進会議については、会員の都合がなかなかつかず、参加は少数にとどまった。	

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>会員数 40（個人 32・団体 8）と目標 50 には届かなかったが、徐々に増加、各種イベントの開催などを通して、ネットワークづくりが少しずつ進んでいる。そして、会員やイベント参加者がつながることで、各種団体のイベント広報の協力、地域住民勉強会などへの参加、「体操教室」交流会の開催など、新たな取り組みの成果もみられている。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>会員や各種イベント参加者の「つながりの大切さを再認識、このようなイベントの開催や会の継続を希望する」などの声をもとに、徐々につながりが増えてきているが、まだまだ道半ばである。新たに参画される方を募るとともに、継続して参画される方の確保が課題である。そのために、広報の方法についての工夫や配慮が必要である。</p>

6. 活動内容がわかる写真

10/30「コミュニティコーピング体験会」の様子



2/1「大交流会VI」・恒例の参加者全員の集合写真



7. 次年度の事業継続（いずれかに○をつけてください）

助成金を活用して
継続して実施する

助成金を活用せずに
継続して実施する

実施しない

8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、助成金を活用しない理由、事業を継続しない理由

引き続き「幹事会」を毎月開催、円滑な会運営に努めていく。従来からの「大交流会」「コミュニティコーピング体験会」を年2回、新たにゲストを招いての「小交流会」を年6回開催し、様々な団体・組織とのつながり（ネットワークづくり）を進めていく。助成金については、スタートアップ支援の交付を3回受けたので、ひとまず卒業、他の助成金の活用を計画している。

9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等（助成金を活用して事業を継続する場合のみ）

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和7年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	子育てと教育・地域社会について考える、映画上映会				
団体名	～ほ～むべ～す～				
助成区分	スタート支援部門 (<input type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input checked="" type="checkbox"/> 3回目)				
助成金 交付決定額	200,000円	助成金 確定額	200,000円	総事業費	358,938円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	未来を担う子どもたちを家庭と地域・学校が一体となって育て見守る社会を作るため、そして「ホーム(家庭・生まれ育った地)」が、子どもだけでなく誰もが皆自分らしく暮らすことができる場所であるための「ベース(基礎・土台)」作りを支援・提案し、魅力的で住み良いまちづくりの実現を目指します。				
2. 事業の内容	学校が舞台のドキュメンタリー映画「みんなの学校」を通じて家庭・地域・学校それぞれが子育てと教育、地域社会において「何ができるか?」を考え、一人一人が自分らしく生きられる住み良いまちづくりのきっかけを広げていく。 舞台となっている大空小学校の初代校長木村泰子さんにも講演にお越しいたごき、会場の皆さまとの対話が実現しました。				
3. 事業評価		項 目	評 価 点		
			不十分		十分
		① 実施時期(日時)はよかったか	1	<input type="radio"/> 2	3
		② 実施場所はよかったか	1	<input type="radio"/> 2	3
		③プログラムの内容はよかったか、事業目的と整合性がとれていたか	1	<input type="radio"/> 2	3
	1 不十分だった 2 一定できた 3 十分だった	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	1	<input type="radio"/> 2	3
		⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	1	<input type="radio"/> 2	3
		⑥企画・準備はうまくいったか	1	<input type="radio"/> 2	3
		⑦広報はよかったか	1	<input type="radio"/> 2	3
	⑧予算は妥当だったか	1	<input type="radio"/> 2	3	
4. 評価理由 ①～⑧の評価で 不十分だった理由 十分にできた理由	<p>上映会・講演会に関しては、スタッフ参加者共に満足度が高く、日時・場所・準備・参加者数など全てにおいて、申し分のない結果でした。</p> <p>ただ、毎月おこなった「おしゃべり会」については広く多くの方に知ってもらい足を運んでいただくことは難しかったです。</p> <p>改善というよりも、継続して認知していただくことが大事で、対象者が必要と感じたときにいつでも来れるようにこれからも続けていきたいと思ひます。</p>				

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>上映会において、保護者の方、地域の方以外にも教職員の方の割合が増えたことが嬉しかったです。</p> <p>活動当初は、どちらかというと家庭や保護者に必要とされていたように感じますが、今では学校現場からもSOSの声を聞くようになり、家庭との協力が必須で、架け橋になる会だったと感じています。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>上記4にも記したように、おしゃべり会は参加者がゼロの会もありました。</p> <p>気軽にふらっと来ていただきたいという思いが、逆にターゲットを絞りきれず行動を促しきれなかったかと思います。</p>

6. 活動内容がわかる写真



7. 次年度の事業継続 (いずれかに○をつけてください)	
助成金を活用せずに、継続して実施する	
8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、助成金を活用しない理由、事業を継続しない理由	
<p>令和8年度は、すでに5月24日に上映会と講演会を開催準備中です。</p> <p>助成金は活用せず、自己資金で行います。</p> <p>資金の目処が立ったことに加えて、助成金の資料作成時間を活動の準備に充てることのできるため、新年度の早い時期に実施が可能となりました。</p>	
9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等 (助成金を活用して事業を継続する場合の)	

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和7年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	若江岩田わいわいイベント				
団体名	グループ「つながる」				
助成区分	スタート部門 (<input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目)				
助成金 交付決定額	200,000円	助成金 確定額	197,066円	総事業費	217,066円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	若江岩田地域のまちづくり活性化の為に、 近鉄奈良線若江岩田駅南遊歩道を使った「わかえいわたマルシェ」 イベントを約2カ月おきに実施。	
2. 事業の内容	こどもを対象に季節のイベントを開催する。 桜祭り、ふれあいまつり、夜市、ハロウィン、オータムセール、クリスマス イベント等を実施。	
3. 事業評価 1 不十分だった 2 一定できた 3 十分だった	項 目	評 価 点 不十分 ←————→ 十分
	① 実施時期（日時）はよかったか	1 2 ③
	② 実施場所はよかったか	1 2 ③
	③ プログラムの内容はよかったか、事業 目的と整合性がとれていたか	1 ② 3
	④ 受益者は意図した人たちだったか、 計画通りの参加人数があったか	1 2 ③
	⑤ 実施体制、協力・連携団体・機関は よかったか	1 ② 3
	⑥ 企画・準備はうまくいったか	1 ② 3
	⑦ 広報はよかったか	1 ② 3
	⑧ 予算は妥当だったか	1 ② 3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で 不十分だった理由 十分にできた理由	近鉄奈良線若江岩田駅南遊歩道の完成で、駅前のハードの固定により、 永年望んできた、イベント開催のできるパブリックスペースが出来上がり、 地域の住人や、近隣の人々の寄り合う場所ができた。 夜市や、ハロウィンイベントでは、遠くより電車を使っでの来訪者も多数 見受けられた。 その他、毎月の開催を求める声も多数あった。	

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか、若江岩田地域での活動により、地域の住人の多くに「わかえいわたマルシェ」が認知され、今までにつながりのない方々との交流ができた。 特に、就労支援施設の方々の応援では、対人交流の場が提供でき、施設の方々にも多いに賛同していただけた。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由 当初のアナログの広報から、ネットの広報に以降することを、目指していたが、開催準備の多忙さに、なかなか移行できなかった。 今後は、今回の交流で、得意な方を探して担当を決め行きたい。 イベントマニュアルは、大体出来上がっているの、広報分野を成長させたい。</p>

6. 活動内容がわかる写真



7. 次年度の事業継続 (いずれかに○をつけてください)		
<input checked="" type="radio"/> 助成金を活用して 継続して実施する	<input type="radio"/> 助成金を活用せずに 継続して実施する	<input type="radio"/> 実施しない
8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、助成金を活用しない理由、事業を継続しない理由		
<p>年4回の「わかえいわたマルシェ」を定番にし、5月ふれあい祭、7月ちびっこ夜市、10月ハロウィン、12月クリスマスイベントを、地域に密着したイベントを行う。 就労支援私鉄と、地域住民のお子様向けの企画を考え、将来に向かって成長するように継続する。</p>		
9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等 (助成金を活用して事業を継続する場合のみ)		
<p>現在協力いただいている、地元商店街も各地の情勢と同様、個人店主店は衰退していくので、商店街の参加企業の協賛や、協力を拡大して、今後も継続できるように、ネットを通じた活動を、強化したい。</p>		

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和7年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	教員志望大学生および現職教員の研修及び個別サポート事業		
団体名	子どもも教員も育つまち東大阪		
助成区分	スタート支援部門 (<input type="checkbox"/> 1回目 <input checked="" type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目)		
助成金額	153,000円	総事業費	164,362円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	若者の教職離れが目立つ昨今、市教育委員会や大学任せではなく、市民の力で教員志望の学生を育てることを目的とする。教職のすばらしさや最新の知見を獲得することで、モチベーションを継続しながら教員を目指す人材を増やしていく。「やりがいを感じ続ける教員」を増やし、東大阪市の義務教育を安定・充実させることを最終目標とする。			
2. 事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・夏と冬に集合型研修を開催。現職教員の参加も呼びかけ、教員志望学生とのかかわりの中で、双方が刺激し合い、気づきを深められる学びの場を設定する。 ・教採面接練習や模擬授業指導助言など、教職キャリア支援を実施 ・年間活動として「平和プロジェクト」を位置づけ、学生メンバーの創意工夫で小学校での出前授業を企画・実践する 			
3. 事業評価 1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	①実施時期（日時）はよかったか	<input type="checkbox"/> 1	・ 2	・ 3
	②実施場所はよかったか	<input type="checkbox"/> 1	・ 2	・ 3
	③プログラムの内容はよかったか、 事業目的と整合性がとれていたか	<input type="checkbox"/> 1	・ 2	・ 3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	1	・ <input type="checkbox"/> 2	・ 3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	<input type="checkbox"/> 1	・ 2	・ 3
	⑥企画・準備はうまくいったか	1	・ <input type="checkbox"/> 2	・ 3
	⑦広報はよかったか	1	・ <input type="checkbox"/> 2	・ 3
	⑧予算は妥当だったか	<input type="checkbox"/> 1	・ 2	・ 3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で十分にできた理由 不十分だった理由	<p>集合型研修は、参加学生が最も多い近畿大学（東大阪キャンパス）とし、設備も充実していた。また、学生のニーズに合わせ、夏は別日程で、オンラインでの開催も実施した。昨年より内容は改善できたものの、学生サークルとの連携等が十分ではなく、前年度より参加人数は若干減少した。</p> <p>今年度からInstagramでの発信を活発に行った。興味関心を示してくれる人も増えたと思われる。広報ポスター・チラシの効果については、不透明である。予算については、通年のプロジェクトを実施したため、前年度以上の支出となった。今年度助成金を増額していただいたおかげで、事業のめどが立った。</p>			

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>参加者の振り返りで、「学校の ICT 活用状況が分かった」「研修で学んだことをインターンシップや教育実習で生かしたい」など教員志望学生のニーズにマッチした内容を提供できた。また、メンターとしての位置づけである現職教員にとっても、教職の尊さなどに改めて気づき、多くの刺激を得た様子が見ええる。</p> <p>昨年同様、東大阪市立小学校社会科教育研究会と事業を共同開催することで、現職教員と大学生が交流する機会を増やすことができた。平和プロジェクトを通じて、教員志望ではない学生にも、市内小学生の学ぶ姿勢に触れ、親しみを感じた様子も見ええた。このようなプロジェクトが、学校関係人口を増やすことにつながると認識できた。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>SNS での発信、大学教員との関係構築、後援名義の取得、市の自主校長会での情報提供の機会など、積極的かつ地道な取り組みによって事業の信頼性を上げた点が多い。また、会場を近畿大学東大阪キャンパスにしたこと、学生も現職教員も来やすい日程を選択し、同内容を複数回で開催したことも、学生の参加者数を上げることにつながったのではないかと考える。</p>

6. 活動内容がわかる写真

1/7 開催 授業づくり&子ども対応交流会



2/13 実施 平和プロジェクト（6年生出前授業）



7. 次年度の事業継続
継続して実施する ・ 実施しない
8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由
<p>通年プロジェクトの運営は、学生のモチベーションや、授業や生活の変化によって、メンバーの参加率が大きく影響することがわかった。今回の経験をノウハウとして使えるようにしておく。</p> <p>令和8年度は、行政との連携、人脈構築、新たなプロジェクトを始動する研究の期間とするため、1年間の活動休止とする。今年度の事業展開を省察し、令和9年度のNPO法人化をめざして、さらに教育系地域活動を活性化していった。</p>
9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等（事業を継続する場合のみ）
<p>教員不足解消や教職の魅力UPは、公立学校や教職養成の大学だけでなく、行政や企業との積極的なコラボが必要な領域である。官民連携による事業としてどのような資金繰りが可能か、検討を要する。</p>

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和7年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

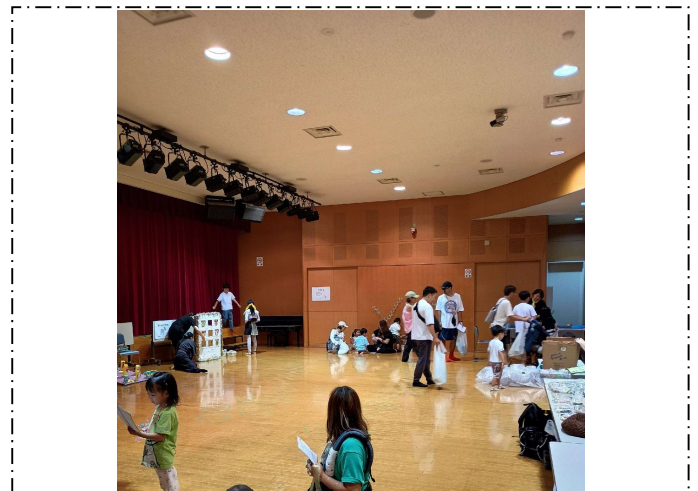
事業名	ひだまり				
団体名	ひだまり				
助成区分	スタート支援部門 (<input type="checkbox"/> 1回目 <input checked="" type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目)				
助成金 交付決定額	68,000 円	助成金 確定額	68,000 円	総事業費	100,412 円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	子どもの成長とともに育児の悩みは形を変えながら続き、特に不登校に直面した保護者は、情報の少なさや対応への不安から心身の負担を抱えやすいと感じています。そうした中で、不登校に関する情報の共有や進路の選択肢を知る機会をつくりながら、保護者同士が思いを話し、少しほっとできる居場所づくりを目指しています。		
2. 事業の内容	同じ悩みを持つ保護者同士が集い、思いの共有や情報交換ができる茶話会を開催します。また、親子で楽しめる絵の具遊びや縁日などのイベントを通して、気分転換になる場づくりを行っています。さらに、活動の周知とともに不登校に関する情報発信や理解促進にも取り組みます。		
3. 事業評価 1 不十分だった 2 一定できた 3 十分だった	項目	評価点 不十分 ←————→ 十分	
	① 実施時期（日時）はよかったか	1	② 3
	② 実施場所はよかったか	1	② 3
	③ プログラムの内容はよかったか、事業目的と整合性がとれていたか	1	② 3
	③ 受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	1	② 3
	⑤ 実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	1	② 3
	⑥ 企画・準備はうまくいったか	1	② 3
	⑦ 広報はよかったか	1	② 3
⑧ 予算は妥当だったか	1	② 3	
4. 評価理由 ①～⑧の評価で 不十分だった理由 十分にできた理由	実施時期や場所、プログラム内容については大きな支障なく進めることができ、前年度より対象者の参加人数が増えたことから、概ね事業目的に沿って実施できました。広報や準備については想定より時間がかかってしまった為、より多くの方に届ける為にはもっと早い段階で取り組む可能性があると感じています。 実施体制や連携については大きな問題はなく、今後さらに関係性を深めていきたいと考えています。予算については助成金の活用により安定した運営につながりました。		

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>本事業では、参加者が安心して過ごしながら交流できる場を提供するという当初の目的については、概ね達成できたと感じています。また、予定していなかった成果として、不登校に関する話をさせていただく機会が少しずつ増えてきており、活動が地域の中で広がってきている実感もあります。こうした動きも一つの成果として捉えています。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>これらの成果が得られた理由としては、無理のない形で継続して場を開いてきたことにより、安心して参加できる雰囲気が少しずつ積み重なってきたことが大きいと感じています。また、参加者や関係者との関わりの中で信頼関係が育ってきたことも要因の一つです。</p> <p>その積み重ねの中で、不登校に関する話をさせていただく機会や地域での役割を担う機会にもつながっており、活動への理解や信頼が広がってきていると感じています。一方で、広報面などは十分とは言えず、今後の課題として感じています。</p>

6. 活動内容がわかる写真



7. 次年度の事業継続 (いずれかに○をつけてください)		
助成金を活用して 継続して実施する	<input checked="" type="radio"/> 助成金を活用せずに 継続して実施する	<input type="radio"/> 実施しない
8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、助成金を活用しない理由、事業を継続しない理由		
<p>これまで助成金を活用しながら活動を継続してきましたが、少しずつひだまりの存在を知ってくださる方が増え、継続的に参加してくださる方も見られるようになりました。現在は特に茶話会を中心に、保護者同士が思いを共有し、安心して過ごせる場としての役割が定着してきていると感じています。規模を広げる段階から、無理のない形で継続していく段階へと移行しているため、現時点では助成金に頼らずとも運営が可能であると判断しています。今後も必要に応じて形を見直しながら、継続を大切に活動を行ってまいります。</p>		
9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等 (助成金を活用して事業を継続する場合のみ)		

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和7年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	チームオレンジ 親子がたのしめるイベントづくり				
団体名	チームオレンジ				
助成区分	スタート部門 (<input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目)				
助成金 交付決定額	200,000	助成金 確定額	200,000	総事業費	235,267

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	子育ては可愛い・楽しい反面、孤独や不自由、精神的な負荷を感じることもある。子育て中のママ同士だからこそ、一緒に楽しめること、分かり合えること、元気をもらえることがある。そんな場所づくりをして、ママを元気にしたい。ママが元気で楽しんでいけば子どもたちやパパも元気に。親子が元気なら町も元気に。同じ町で、みんなで一緒に子育てを楽しんでいると感じられるようなイベントを企画する。	
2. 事業の内容	①子どもたち自身が1から考えた「こども店長」ブースを中心に、飲食や物販などの「おとな店長」ブースが勢ぞろい！子育て世代を中心に大勢の人が集まる「子育て×まちづくりのイベント」開催（年間1回） ②同じ子育て世代の仲間が集まる未就園児親子向けワークショップ開催（年間4回） ③子育て応援マップを表紙に印刷したオリジナル自由帳の製作と配布（500部）	
3. 事業評価	項目	評価点 不十分 ←=====→ 十分
	① 実施時期（日時）はよかったか	1 2 ③
	② 実施場所はよかったか	1 2 ③
	③プログラムの内容はよかったか、事業目的と整合性がとれていたか	1 2 ③
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	1 2 ③
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	1 2 ③
	⑥企画・準備はうまくいったか	1 ② 3
	⑦広報はよかったか	1 2 ③
	⑧予算は妥当だったか	1 2 ③
4. 評価理由 ①～⑧の評価で 不十分だった理由 十分にできた理由	総合的に意図した以上の結果が得られ、3事業を通して【子育てによる孤立を減らし町みんなで楽しく子育てを！子どもたちが楽しめる町を親が作る！】という私たちの想いを大勢の方々に届ける事ができた。ただ、初めての駅前広場イベント利用の為に手続きが思う様に進められない事態や段取りに抜けがあり関係者に迷惑をかけるトラブルがあったが、迅速に助けて頂いたおかげで無事にイベントを開催できた。	

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>① のイベントについて、永和駅前交通広場の利用申請承認まで長期間かかってしまったために、告知期間が計画より短くなってしまったが、臨機応変にチラシの印刷枚数をかなり増やし、近隣小学校・幼稚園等で配布していただいた。結果、たくさんの集客がありイベントを成功させることができた。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>東大阪市と東大阪市教育委員会のイベント後援名義申請を承認していただいていた為、多くの近隣小学校・幼稚園等の協力を得ることができた。また、事前に永和駅前商店会等近隣へもご挨拶と告知ご協力をお願いに伺っていた為、多くの集客につながったと感じる。まずは自分たちが、町の方々と積極的に関わって繋がりを持つことで、賛同や協力の輪が広がっていき、まちづくりの一端を担い成果を上げることができた。</p>

6. 活動内容がわかる写真



7. 次年度の事業継続 (いずれかに○をつけてください)		
<input checked="" type="radio"/> 助成金を活用して 継続して実施する	<input type="radio"/> 助成金を活用せずに 継続して実施する	<input type="radio"/> 実施しない
8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、助成金を活用しない理由、事業を継続しない理由		
<p>次年度は、より多くの子育て世代に想いを届けるため、多くの人が集まるイベント実施の回数を増やし、今年度苦労した会場使用申請の手続きや出店者手配等の段取りを全て早め早めに動くように努める。</p>		
9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等 (助成金を活用して事業を継続する場合のみ)		
<p>出店料収入と会場使用料や印刷費などの経費のバランスを考え、後援や協賛等に協力してくれる企業や団体とのつながりを作っていくように努める。</p>		

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和7年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	アクティブラーニング推進事業				
団体名	知育&子育てサロン Sotto.				
助成区分	スタートアップ部門 (<input type="checkbox"/> 1回目 <input checked="" type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目)				
助成金 交付決定額	20万円	助成金 確定額	20万円	総事業費	278,909円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	子育て支援センターが少ない東大阪市の北部に位置する加納地域にて、親子に寄り添う保育士がいる子育て世代のための居場所づくり。				
2. 事業の内容	幼児期の遊びの大切さや多様性を発信し、知育遊びを中心に、子育ての悩みに楽しみながら向き合えるイベントを開催。				
3. 事業評価 1 不十分だった 2 一定できた 3 十分だった	項目	評価点 不十分 ←=====→ 十分			
	1 実施時期(日時)はよかったか	1	2	③	
	2 実施場所はよかったか	1	2	③	
	③プログラムの内容はよかったか、事業目的と整合性がとれていたか	1	2	③	
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	1	2	③	
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	1	2	③	
	⑥企画・準備はうまくいったか	1	2	③	
	⑦広報はよかったか	1	②	3	
	⑧予算は妥当だったか	1	2	③	
4. 評価理由 ①～⑧の評価で不十分だった理由 十分にできた理由	<p>昨年度は集客に課題があったため、今年度はイベント前にチラシの配布や地域掲示板への掲載を行うなどの対策を講じた。あわせて、PRを目的にマルシェへ出展し、知育遊びのゲームも実施した。広報については、なお改善の余地を感じている。</p> <p>また、知育遊びや教育に関心の高いご利用者様が他府県より参加していただくことが多く見られたため、今年度は『東大阪市民割』と『リピーター様割』を導入し、市内の方やこれまで利用してくださった方の参加の定着を図ったことは、少し効果が見られた。</p>				

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか 概ね予定していた成果があがった。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由 昨年度の課題や反省を随時あげ、今年度に生かすことができたため。 また、講師先生とイベント内容やこちらの目的を明確に伝える話し合いを重ねること で、事業や活動内容について理解していただき、利用者様に安価で貴重な経験を提 供することが実現したのではないかと考える。</p>

6. 活動内容がわかる写真



7. 次年度の事業継続 (いずれかに○をつけてください)

助成金を活用して
継続して実施する

助成金を活用せずに
継続して実施する

○実施しない

8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、助成金を活用しない理由、事業を継続しない理由

拠点となるサロンが、自動車整備工場の二階ということで利用者様が急な階段を上り下りして利用し
てくださる際にベビーカーをもって上がることが難しく、小さなお子様の行き来の安全面に不安がある
こと。また、真夏と真冬といった子育て世代が室内での快適な居場所を欲している時期に広さゆえに空
調が効きにくく、運営上の課題が見られるようになってきたため。来年度は、運営場所や活動拠点を
もう一度見直し、私たちに何ができるのかを、探っていきたいと考える。

9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等 (助成金を活用して事業を継続する場合のみ)

--

令和7年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	東大阪市に独自の芸術文化をつくる事業				
団体名	東大阪市ジャズ協会				
助成区分	スタート支援部門 (<input type="checkbox"/> 1回目 <input checked="" type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目)				
助成金 交付決定額	200,000	助成金 確定額	198,001	総事業費	339,831

<p>1. 事業の目的 地域課題・社会背景等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東大阪市で独自の芸術文化を育て、魅力的な街に発展する余地がある。 ～アンケート結果からの問題点～ ・需要があるにも関わらず、東大阪市民が気軽に本格的な芸術に触れられる機会・場所が少ない ・東大阪市民にイベントを周知できる宣伝媒体が少ない。 ・芸術家の作品レベル、演出力が低い。 ・鑑賞者の芸術リテラシーを高める必要がある。 																																							
<p>2. 事業の内容</p>	<p>(1) 助成対象事業：東大阪ジャズ協会イベント（全5回） 若手からベテランまで幅広い層が参加するコンサートとワークショップを市内で開催（Compás Meets Bop Vol.1～3、クリスマスコンサート、Art of Jazz Lab）。市民が気軽に生演奏に触れる機会を提供し、各回とも多くの集客を達成した。</p> <p>(2) 関連事業：若手育成・交流ジャムセッション（助成金外） 定期演奏会の開催と並行し、地域ミュージシャンの技術向上と交流を目的としたジャムセッションを自主運営で毎月実施。演奏会で関心を持った市民がプレイヤーとして参加する場となり、地域の音楽コミュニティの活性化に大きく寄与した。</p>																																							
<p>3. 事業評価</p> <p>1 不十分だった 2 一定できた 3 十分だった</p>	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項 目</th> <th colspan="3">評 価 点</th> </tr> <tr> <th>不十分</th> <th></th> <th>十分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 実施時期（日時）はよかったか</td> <td>1</td> <td>②</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>② 実施場所はよかったか</td> <td>1</td> <td>②</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>③プログラムの内容はよかったか、事業目的と整合性がとれていたか</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか</td> <td>1</td> <td>②</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか</td> <td>1</td> <td>②</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>⑥企画・準備はうまくいったか</td> <td>1</td> <td>②</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>⑦広報はよかったか</td> <td>①</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>⑧予算は妥当だったか</td> <td>1</td> <td>②</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	評 価 点			不十分		十分	① 実施時期（日時）はよかったか	1	②	3	② 実施場所はよかったか	1	②	3	③プログラムの内容はよかったか、事業目的と整合性がとれていたか	1	2	③	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	1	②	3	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	1	②	3	⑥企画・準備はうまくいったか	1	②	3	⑦広報はよかったか	①	2	3	⑧予算は妥当だったか	1	②	3
項 目	評 価 点																																							
	不十分		十分																																					
① 実施時期（日時）はよかったか	1	②	3																																					
② 実施場所はよかったか	1	②	3																																					
③プログラムの内容はよかったか、事業目的と整合性がとれていたか	1	2	③																																					
④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	1	②	3																																					
⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	1	②	3																																					
⑥企画・準備はうまくいったか	1	②	3																																					
⑦広報はよかったか	①	2	3																																					
⑧予算は妥当だったか	1	②	3																																					

令和7年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	まなびキッチン		
団体名	まなびキッチン実行委員会		
助成区分	スタート支援 部門 (<input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目)		
助成金額	200,000 円	総事業費	168,221円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	「グレーゾーン」「不登校」「シングルファザー、マザーの子ども」「多国籍」など社会や常識の狭間で生きづらさを感じている子供たちが安心できる居場所を提供するために事業を実施する。			
2. 事業の内容	月1回、様々な職業に従事している講師を招き職業の実際について話してもらい、子供たちに多様な職業の世界を紹介し将来の選択肢や夢を広げることを目的とする。質疑応答や実際の職業の現場を見学することで具体的な職業理解を深める。上記を通して家庭、地域社会や各学校等と連携を図りながら子どもたちが地域で安心して暮らしていけるようサポートしていく。			
3. 事業評価 1 十分だった 2 一定できた 3 不十分だった	①実施時期(日時)はよかったか	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
	②実施場所はよかったか	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
	③プログラムの内容はよかったか、 事業目的と整合性がとれていたか	<input type="checkbox"/> 1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	<input type="checkbox"/> 1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
	⑥企画・準備はうまくいったか	<input type="checkbox"/> 1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
	⑦広報はよかったか	<input type="checkbox"/> 1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
	⑧予算は妥当だったか	<input type="checkbox"/> 1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で十分だった理由 不十分だった理由	<p>本事業は、運営体制の安定化と利用者ニーズに即したプログラム改善の両面において、極めて意義のある成果を収めることができました。</p> <p>まず実施体制については、役員が所有するデイサービス施設を活用することで、場所と時間の安定的な確保が可能となりました。この強固な基盤があったからこそ、質の高い活動を継続的に提供できたと評価しています。</p> <p>プログラム面では、当初の「個別学習・職業体験」という設定が利用者にとって心理的・内容的なハードルとなっていた課題に対し、アンケート結果に基づき「子どもが主体的に楽しめる内容」へと速やかに軌道修正を行いました。この柔軟な対応が功を奏し、リピート率および参加人数の飛躍的な向上に繋がりました。</p> <p>さらに、SNS (Instagram) を通じた継続的な広報により、当団体の専門性や活動の特色が地域に浸透したことも大きな成果です。その結果、障がいをお持ちの方や相談支援専門員からの利用相談が寄せられるなど、単なる子ども食堂の枠を超え、地域の福祉ニーズを受け止める「相談・支援の窓口」としての機能が顕在化したことは、今後の活動を推進する上での大きな自信となりました。</p>			

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>当初計画していた地域児童への支援については、体験型プログラムの最適化を通じて着実に成果を上げることができました。</p> <p>これに加え、予定外の成果として「地域ネットワークの深化」が挙げられます。Instagramによる地道な広報活動の結果、専門職運営という当団体のアイデンティティが地域に広く認知されました。その結果、障がいをお持ちの方々と相談支援専門員といった福祉の現場から直接相談が舞い込むようになり、地域の相談支援のハブ（拠点）としての役割が図らずも顕在化しました。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>① 基盤の安定： 役員協力による福祉施設の活用により、安全かつ継続的な開催が可能となったこと。</p> <p>② ニーズへの即応： アンケート結果を真摯に受け止め、子どもが主体的に参加できる「ものづくり」へ内容を最適化したこと。</p> <p>③ 専門性の発信： 医療・福祉専門職という強みをSNSで戦略的に可視化し、地域の相談支援専門員など、プロフェッショナル層からの信頼を獲得したこと。</p> <p>これらの要素が、利用者側の「参加しやすさ」と、地域社会からの「信頼」を同時に構築する鍵となりました。</p>

6. 活動内容がわかる写真



7. 次年度の事業継続	
<input checked="" type="checkbox"/> 継続して実施する	<input type="checkbox"/> 実施しない
8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、事業を継続しない理由	
<p>次年度は「地域連携の最大化」を重点目標に掲げ、活動をさらに発展させます。</p> <p>具体的には、小中学校への直接的な働きかけによる認知度向上と、行政・教育委員会・他団体との密なネットワークの構築です。</p> <p>特に、助成金情報の共有を含む団体間交流を活性化させることで、地域全体での支援の継続性を確保します。専門職チームとしての知見を地域社会へ還元しつつ、公的機関との橋渡し役を担うことで、地域包括ケアシステムに資する活動へと深化させてまいります。</p>	
9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等（事業を継続する場合のみ）	
<p>今後は「地域全体で支える基盤づくり」を軸に、財源の多様化を図ります。</p> <p>具体的には、地域企業への協賛依頼を通じたパートナーシップの構築や、寄付サイトを活用した個人サポーターの募集を行い、安定的な収入源を確保します。</p> <p>あわせて、地元の農家や企業からの食材提供（フードバンク活用）を促進することで、運営コストの低減に努めます。医療・福祉の専門職チームとしての信頼性を強みに、公的資金に頼りすぎない自立した運営モデルの確立を目指してまいります。</p>	

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和7年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	ひのもと				
団体名	ひのもと				
助成区分	スタート支援部門 (<input type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input checked="" type="checkbox"/> 3回目)				
助成金 交付決定額	200000 円	助成金 確定額	179,676 円	総事業費	263,651円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	地域課題：希薄化するコミュニティと孤立の防止 社会背景：伝統文化の衰退と郷土愛の継承 社会背景：多世代交流による「地域教育力」の再生	
2. 事業の内容	「心の居場所」と「顔の見える関係」の再構築 郷土愛（シビックプライド）の醸成と文化のバトンタッチ 「地域教育力」を再生する多世代の連帯	
3. 事業評価	項 目	評 価 点 不十分 ←————→ 十分
	① 実施時期（日時）はよかったか	1 2 ③
	② 実施場所はよかったか	1 2 ③
	③プログラムの内容はよかったか、事業目的と整合性がとれていたか	1 2 ③
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	1 2 ③
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	1 2 ③
	⑥企画・準備はうまくいったか	1 2 ③
	⑦広報はよかったか	1 2 ③
	⑧予算は妥当だったか	1 2 ③
4. 評価理由 ①～⑧の評価で 不十分だった理由 十分にできた理由	本事業は、映画・伝統・マルシェという多角的なアプローチにより、全世代が混ざり合う「心の居場所」を東大阪に創出できました。公共施設や神社との連携、延べ450名超の動員、スタッフ間の強固な協力体制など、計画を上回る成果を達成。地域資源を活かし、希薄化した地縁を再構築する「ひのもと」の存在価値を十分に証明できたと確信しています。何より大切にしたのは、地域の大人が本気で輝き、おもしろがって活動する姿を子どもたちに見せることです。その背中を通じて「大人ってええなあ」「未来は明るいなあ」と子どもたちが心から思える、夢のある東大阪市を創造していくこと。これこそが「ひのもと」の真の使命であり、本事業はその大きな一歩となりました。	

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>当初予定した全3事業を完遂し、延べ450名超の動員という目標以上の成果を上げました。予定外の収穫は、大人が本気で楽しむ姿を見た子どもたちから「大人ってええなあ」という声が漏れたことです。地域の公共施設や神社、高校と深く連携し、スタッフが主体的に輝きながら運営したことが、この大きな成果に繋がりました。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>予定した全事業で目標を上回る成果を得られました。その要因は、スタッフ自身が心から楽しみ、輝いて活動する姿を地域に見せたことにあります。その熱量が「大人ってええなあ」という憧れとして子どもたちや住民に伝わり、公共施設や学校、神社との強固な連携を呼び込み、多世代が自然に集う活気ある場を実現できました。</p>

6. 活動内容がわかる写真



7. 次年度の事業継続 (いずれかに○をつけてください)

助成金を活用して
継続して実施する

助成金を活用せずに
継続して実施する

実施しない

8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、助成金を活用しない理由、事業を継続しない理由

今年度の事業を通じて、地域に確かなニーズと「ひのもと」の存在価値を証明できました。次年度は、助成金に頼らない「自立した持続可能な運営」へとフェーズを移します。具体的には、単独開催ではなく他の地域団体との共同開催へと形を変え、お互いの強みを活かした相乗効果を狙います。また、特に成功を収めた「子宝マルシェ」の運営ノウハウや仕組みを、他の団体へ惜しみなく提供できる「仕組みづくりの組織」へと進化させます。大人が手を取り合い、楽しみながら活動を広げていく姿を見せることで、子どもたちが「大人ってええなあ、未来は明るいなあ」と思える東大阪市を、より広いネットワークで実現してまいります。

9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等 (助成金を活用して事業を継続する場合のみ)

令和7年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	おもちゃの広場				
団体名	おもちゃとあそび tocotoco				
助成区分	スタート支援部門 (<input type="checkbox"/> 1回目 <input checked="" type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目)				
助成金 交付決定額	90,000	助成金 確定額	71,829	総事業費	95,447

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	当団体は東大阪市内の公共施設等を中心に、子どもの様々な動きや、活動、興味を促し、かつ安全・安心なグッドトイ等を中心としたおもちゃを使い、親子で気軽にあそべる「おもちゃの広場」の開催を活動目的とする。親子でおもちゃで一緒に遊ぶことを通して、子どもにとってのあそびの意味や、親と子が一緒に過ごすことの意味を情報発信していくことを活動のねらいとしています。		
2. 事業の内容	年4回程のおもちゃの広場の開催を通して、乳幼児期の子どもとその保護者が安心して、グッドトイで遊ぶ機会を提供したいと考えています。乳幼児期の子どもの持つ感覚や豊かな感受性を育み、保護者や他の子どもとのコミュニケーションが自然と生まれます。親子で一緒におもちゃで遊ぶことを通して、親が子どもの興味関心を知り、家庭での遊びやコミュニケーションが広がって欲しいと考えています。		
3. 事業評価 1 不十分だった 2 一定できた 3 十分だった	項 目	評 価 点 不十分 ←=====→ 十分	
	① 実施時期（日時）はよかったか	1	2 <input type="checkbox"/> 3
	② 実施場所はよかったか	1	2 <input type="checkbox"/> 3
	③プログラムの内容はよかったか、事業目的と整合性がとれていたか	1	2 <input type="checkbox"/> 3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	1	2 <input type="checkbox"/> 3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	1	2 <input type="checkbox"/> 3
	⑥企画・準備はうまくいったか	1	2 <input type="checkbox"/> 3
	⑦広報はよかったか	1	2 <input type="checkbox"/> 3
⑧予算は妥当だったか	1	<input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3	
4. 評価理由 ①～⑧の評価で 不十分だった理由 十分にできた理由	今年も年4回のおもちゃの広場の開催を企画し、無事目標を達成することができました。また、今年はグッドトイの有効活用を目的に、グッドトイを市内の子育て支援に携わる3団体に無償で貸し出しを実施し、好評を得ました。また、市内の図書館ボランティア団体「ココ絵本の会」との共催イベント「おもちゃと絵本の広場」の開催や、市内子育て支援団体「やどり木」が主催する「やどり木まつり」にもおもちゃの広場として参加し、多くの親子にグッドトイで遊ぶ機会を提供しました。		

※ 1～4 を 1 枚に収めるように記載してください。

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>おもちゃの広場の案内は、団体のInstagramでの周知のみでしたが、定員に達する人数が集まるようになり、徐々に「おもちゃの広場」の周知が広がってきていると感じています。地域まちづくり助成金のつながりで、様々な団体の皆さんと知り合うことができ、「やどり木まつり」のようなイベントにもお誘いいただくことができ、団体同士の繋がりも広がってきていると思います。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>活動内容としては、「おもちゃの広場」「グッドトイ貸し出し」「他団体との共催イベントの実施」など見通しが見えてきましたが、活動費の捻出については課題があると認識しています。活動費の捻出のため、木のおもちゃ作りのワークショップを開催しましたが、内容や値段など再考が必要と感じています。また、団体の活動に協力してくれる人材の確保も継続的に実施していく上では課題があると認識しています。</p>

6. 活動内容がわかる写真



7. 次年度の事業継続 (いずれかに○をつけてください)		
<input checked="" type="radio"/> 助成金を活用して 継続して実施する	<input type="radio"/> 助成金を活用せずに 継続して実施する	<input type="radio"/> 実施しない
8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、助成金を活用しない理由、事業を継続しない理由		
<p>引き続きおもちゃとあそび tocotoco は、おもちゃの広場の開催を通して、親子が気軽にグッドトイを中心としたおもちゃで楽しめる場所づくりを基本活動として取り組んでいきます。その中で親子で一緒に遊ぶことの大切さや、子どもにとってのおもちゃやあそびの意味、乳幼児期の子ども達を育てるときに大切にしてほしいことなどを、お便り「親と子 トコトコ」を定期的に発行していきながら、発信していきます。</p>		
9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等 (助成金を活用して事業を継続する場合のみ)		
<p>助成金終了後はワークショップやおもちゃの貸出を通して活動費用を捻出し、グッドトイ等備品も増やしていきながら、おもちゃの広場の自主開催がよりスムーズに開催できることを目標にしています。基本コンセプトはおもちゃやあそびを通して、親子が楽しく過ごせる機会を提供することを大切に、おもちゃの広場やワークショップなどの各事業を展開していきたいと思っています。活動を続けていく中で、趣旨に共感、賛同してくれる人を集めながら、少しずつ活動の輪を広げていきたいと思っています。</p>		

※ 5～9 を 1 枚に収めるように記載してください。

令和7年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

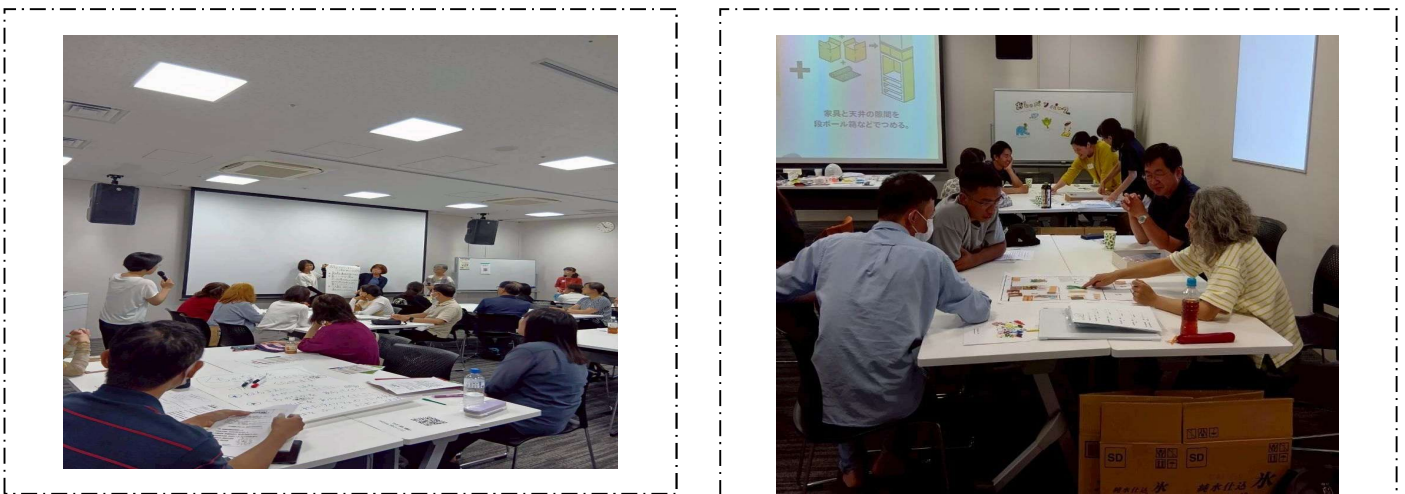
事業名	多文化共生社会を私の町にも！やさしい日本語での情報発信と地域交流事業				
団体名	多文化共生サポート「結」				
助成区分	スタート支援部門 (<input type="checkbox"/> 1回目 <input checked="" type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目)				
助成金 交付決定額	200,000 円	助成金 確定額	167,665 円	総事業費	222,301 円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	東大阪市は外国籍住民が多く暮らすまちですが、言語の壁による情報格差が課題です。特に災害時、難解な言葉は命に関わる情報伝達の妨げとなります。本事業は、外国人住民に伝わりやすい「やさしい日本語」を普及させ、情報のバリアフリー化を推進しました。日本人住民との相互理解を深め、誰もが取り残されない多文化共生社会を実現することを目的としています。		
2. 事業の内容	「防災×やさしい日本語」をテーマに掲げ、多角的な活動を展開しました。外国人住民と直接対話する「おしゃべりパーク」を2回、市民向け「ワークショップ」を1回開催。さらに「防災ガイド」作成に向けた勉強会を5回重ね、3月末に完成に至りました。市の危機管理室、多文化共生男女共同参画課、まちづくり地域活動支援室のみなさんにも伴走していただき、やさしい日本語でつながる防災の形を追求しました。		
3. 事業評価 1 不十分だった 2 一定できた 3 十分だった	項目	評価点 不十分 ←=====→ 十分	
	① 実施時期（日時）はよかったか	1	2 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/>
	② 実施場所はよかったか	1	2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/>
	③プログラムの内容はよかったか、事業目的と整合性がとれていたか	1	2 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/>
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	1	2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/>
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	1	2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/>
	⑥企画・準備はうまくいったか	1	2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/>
	⑦広報はよかったか	1	2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/>
	⑧予算は妥当だったか	1	2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/>
4. 評価理由 ①～⑧の評価で 不十分だった理由 十分にできた理由	「防災×やさしい日本語」という軸を決めたことで、内容がブレることなく、ワークショップからガイド作成までを良い流れで進めることができました。日本人向けの広報も、チラシやロコミが効果を発揮し、手応えを感じています。 一方で、外国人の集客には課題が残りました。当日キャンセルもあり、目標人数には届かなかったため、今後は外国人の方々へ届きやすい広報の方法や、当日参加を促す工夫を検討していきたいです。		

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>「防災×やさしい日本語」をテーマにしたワークショップを通じ、参加者の皆さんにその重要性を深く理解していただくことができました。また、ガイド作成の過程で市の危機管理室や多文化共生男女参画課との協力体制が築けたことは、今後の活動に繋がる大きな収穫です。完成したガイドは予想以上の反響を呼び、他市の教育関係者からも配布希望が届くなど、やさしい日本語の必要性が広く求められていると実感しています。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>当初の目標に対し、外国人の集客については課題が残りました。その要因として、当事者の中に防災への関心が薄い層が一定数いるという想定が不足していたことが挙げられます。日本語教室や外国籍社員の多い企業など、実際に外国人が集まる場所へこちらから出向くといった視点が必要でした。今後は、防災に関心を持ってもらうための入り口の工夫や、効果的なアプローチ方法を具体的に検討していく必要があります。</p>

6. 活動内容がわかる写真



7. 次年度の事業継続 (いずれかに○をつけてください)		
助成金を活用して 継続して実施する	<input checked="" type="radio"/>	助成金を活用せずに 継続して実施する
	<input type="radio"/>	実施しない
8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、助成金を活用しない理由、事業を継続しない理由		
<p>次年度はメンバーの諸事情を考慮し、あえて助成金に頼らず「自走」の可能性を試す一年とします。具体的には、個人単位での「やさ日カフェ」や他団体とのコラボなど、柔軟なトライ&エラーを通じて活動の幅を広げる計画です。やさしい日本語防災ガイドを活用した出張ワークショップ、やさしい日本語×古典文学講座など、活動範囲を東大阪市以外にも広げ、やさ日普及のより効果的なアプローチを検証します。また、この1年で寄付金や賛助会員募集等、自立した運営体制を模索していきます。</p>		
9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等 (助成金を活用して事業を継続する場合のみ)		

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和7年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	東大阪市障害者文化スポーツ大会				
団体名	東大阪市障害者文化スポーツ大会				
助成区分	スタート支援部門 (<input type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input checked="" type="checkbox"/> 3回目)				
助成金 交付決定額	200,000 円	助成金 確定額	114,025 円	総事業費	342,279 円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	東大阪市内にはふれあい祭り等といった、大規模な住民の交流イベントがあります。障害者の中には合理的配慮や支援者がいることで、そういったイベントにはじめて参加できる方がいます。当会は一人ひとりに配慮がしやすいようコンパクトなイベントを通年で実施し、障害者を含めた住民間の交流が増えることを目的としています。また、イベントを開催するだけでなく、一緒にイベントを作り、一緒に参加することで相互理解を深め、誰もが暮らしやすい東大阪市のまちづくりの一助になることを目的としています。		
2. 事業の内容	定期的にイベントを開催しています。 ボッチャ大会・運動会・凧揚げ大会といった体を動かすイベントや、創作物の展示会といった文化的なイベントを実施しています。		
3. 事業評価 1 不十分だった 2 一定できた 3 十分だった	項目	評価点 不十分 ←=====→ 十分	
	① 実施時期（日時）はよかったか	1	2 ③
	② 実施場所はよかったか	1	2 ③
	③プログラムの内容はよかったか、事業目的と整合性がとれていたか	1	② 3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	1	② 3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	1	② 3
	⑥企画・準備はうまくいったか	1	② 3
	⑦広報はよかったか	①	2 3
	⑧予算は妥当だったか	1	② 3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で 不十分だった理由 十分にできた理由	月に一度実行委員で会議を実施し、大枠は同じイベントでも中身をリニューアルしたことや、ご利用者様への配慮を細かく共有することで、どなたでも安心して参加できるイベントが実施出来ました。参加する障害福祉事業所やボランティアスタッフが、回を重ねるごとに増えています。一方地域の方の参加数に関しては、まだまだ少ないので、次年度は広報活動に注力してまいります。		

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>今年度は参加事業所数、参加者数共に増加しており、横のつながりが広がっています。また、別事業所のご利用者様同士が仲良くなって声を掛け合い、よい関係を築かれている場面も多く見られました。地域の方のイベントへの見学や参加も、少しずつ増えています。企業の方が継続的にボランティアとして参加してくださっています。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>月に一回実行委員のメンバーが集まり、各イベントの改善や新しい企画の提案をしています。地域の方により私たちの活動を知って頂くため、他の助成金団体の活動やふれあいまつり等に参加しました。各イベントのチラシを作成してのPRや、ボランティアスタッフの募集を幅広く実施しました。</p>

6. 活動内容がわかる写真



7. 次年度の事業継続 (いずれかに○をつけてください)		
<input checked="" type="radio"/> 助成金を活用して 継続して実施する	<input type="radio"/> 助成金を活用せずに 継続して実施する	<input type="radio"/> 実施しない
8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、助成金を活用しない理由、事業を継続しない理由		
<p>地域の方へのPRが不十分だと考えています。今まで各イベントを今まで現場を中心になって運営してきた役員は、認知獲得のために営業や広報活動に注力していきます。東大阪市内の自治会、学校、障害者支援を行う人たち等へ、イベントのチラシの配布など、PR活動を積極的に行います。認知を向上させ、より地域の方と交流する機会を創出できるよう、他団体の活動やふれあい祭り等の地域のイベントに積極的に参加していきます。また、他団体と良い関係を築き、ともにイベントを作り上げることも目指します。</p>		
9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等 (助成金を活用して事業を継続する場合のみ)		
<p>上記の活動に取り組み、認知度を高めた上で当会に賛同いただけるスポンサーを募り、持続可能な会となることを目標とします。</p>		

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和7年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	河内音頭をはじめとする郷土芸能の伝承と活性化プロジェクト～新しい形の祭り・盆踊り提案～				
団体名	特定非営利活動法人音頭座がらく				
助成区分	チャレンジ部門 (<input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目)				
助成金 交付決定額	250,000円	助成金 確定額	250,000円	総事業費	777,876円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	各地域の自治会等が主催する祭りや盆踊りは、地域の役員の高齢化と後継者不足や準備・運営に係る人手不足等の問題で開催を断念するところが増えており、地域での人々の交流の場が無くなると共に伝統文化の衰退が危惧される状況である。また、伝統芸能の後継者不足も深刻な状況で、次代の継承者の探索と育成が急がれる。令和4～6年度で実施してきた「新しい形の祭り、盆踊りイベント提案プロジェクト」事業の実績を礎に、更なる広報活動と幅広いジャンルの音楽や郷土芸能が一堂に会するイベントの企画・設営・運営までをパッケージ化した提案を行い、各地域での開催に繋げて地域住民の交流を深める機会の維持・拡大を目指す。		
2. 事業の内容	世代やジャンルを問わず様々な交流や情報をインターネットラジオ等により幅広く発信すると共に、練習生・研修生の募集と一般の方との交流やPRの場として、外部講師を招いて河内音頭セミナーを開催。 また、幅広いジャンルの音楽（アニメソング、POPS、演歌、民謡等）や郷土芸能が一堂に会する提案イベント（企画・設営・運営までをパッケージ化）を開催し、インターネットでも一部公開することにより、来場者以外にも広く訴求する。		
3. 事業評価 1 不十分だった 2 一定できた 3 十分だった	項目	評価点 不十分 ←————→ 十分	
	① 実施時期（日時）はよかったか	1	3
	② 実施場所はよかったか	1	3
	③プログラムの内容はよかったか、事業目的と整合性がとれていたか	1	3
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	1	3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	1	3
	⑥企画・準備はうまくいったか	1	3
	⑦広報はよかったか	1	3
	⑧予算は妥当だったか	1	3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で 不十分だった理由 十分にできた理由	河内音頭セミナーの開催時期について、準備や会場手配の都合で9月の開催となったが、盆踊り時期前の6～7月の実施が望ましかった。 河内音頭セミナー、日本の郷土音楽祭ともに参加者は意図した人たちであったが、集客人数が計画よりも少なく（約50%）、自己資金の拠出が増えた。 今後の継続的な事業展開を前提に地域まちづくり活動以外の収支を含めたバランスの適正化が課題である。		

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>これまでの継続した活動が認知されることにより、令和7年度は外国企業の大阪営業所開設記念セレモニーやインバウンド向け盆踊り体験イベントの企画・構成・出演を請負うことができた。</p> <p>各種イベントへの出演や企画・運営への参画依頼も増え着実に実績に繋がっている。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>令和4年～7年度の助成金を受けて開催した意見交換会や提案イベント等を含めた各種予定や活動状況について、東大阪市市民活動情報サイト「スクラムは〜と」や各種SNS、インターネットラジオ番組をはじめとする各種メディアで発信する事により、問い合わせやイベント参画・出演依頼に繋がった。</p>

6. 活動内容がわかる写真



7. 次年度の事業継続 (いずれかに○をつけてください)		
<input checked="" type="radio"/> 助成金を活用して 継続して実施する	<input type="radio"/> 助成金を活用せずに 継続して実施する	<input type="radio"/> 実施しない
8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、助成金を活用しない理由、事業を継続しない理由		
<p>引き続き河内音頭をはじめとする伝統芸能・文化の伝承と活性化を目的とした練習生・研修生を広く募集し、一般の方を対象とした河内音頭セミナーを開催。その状況をホームページや各種SNS、インターネットラジオ番組をはじめとする各種メディアで発信することで参加メンバーを増やすと共に、自主事業としての各種イベント開催や受託事業としてのイベント参画や出演で事業収益向上を図る。</p> <p>また、賛助会員や協力・協賛していただく個人・団体・企業を増やし、イベント協賛や各種チラシ・ポスターへの協賛を積極的に募り、財政基盤の自立を図る。</p>		
9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等 (助成金を活用して事業を継続する場合のみ)		
<p>上記の取組を継続することで、伝統芸能界の門戸を広げると共に敷居を低くし、気軽に体験できる機会創出によって伝承者探索・育成に繋げる。</p> <p>また、地域社会・各自治会役員等の高齢化と後継者不足対策として、幅広い世代で共有できる「新しい形の祭りや盆踊り提案」を行い、無理のない運営で永続的な恒例行事として地域の人々の交流の場を維持・拡大することで地域社会の活性化に繋げたい。</p>		

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和7年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	地域共同体再構築「はなの輪」プロジェクト				
団体名	はわなの共感事業協働組合				
助成区分	事業チャレンジ部門 (<input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目)				
助成金 交付決定額	500,000	助成金 確定額	500,000	総事業費	1,189,831

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	地域における人間関係の希薄化が、孤独を感じる人の増加（幸福感の低下）、公助への依存、子どもの成長への影響、災害時におけるレジリエンスの低下等、多くの社会課題を生む温床になっています。当プロジェクトでは、地域共同体の再構築を図り、地域における人間関係の希薄化が影響している様々な社会課題の解消を目的としています。		
2. 事業の内容	本事業では、コミュニケーション力と地域貢献意欲の高い女性（となりのお節介おばちゃん）を起点として人がつながる文化（はなの輪文化）を社会実装していくため、広く地域の皆様に花の輪文化を体験いただくことを目的として、昨年、一昨年に続き、はなのわ文化祭 2026 を開催。		
3. 事業評価 1 不十分だった 2 一定できた 3 十分だった	項 目	評 価 点 不十分 ←————→ 十分	
	① 実施時期（日時）はよかったか	1	2 <input type="checkbox"/> 3
	② 実施場所はよかったか	1	2 <input type="checkbox"/> 3
	③ プログラムの内容はよかったか、事業目的と整合性がとれていたか	1	2 <input type="checkbox"/> 3
	④ 受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	1	<input type="checkbox"/> 2 3
	⑤ 実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	<input type="checkbox"/> 1	2 3
	⑥ 企画・準備はうまくいったか	1	<input type="checkbox"/> 2 3
	⑦ 広報はよかったか	1	<input type="checkbox"/> 2 3
	⑧ 予算は妥当だったか	1	<input type="checkbox"/> 2 3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で 不十分だった理由 十分にできた理由	3年目の開催となったはなの輪文化祭は、地域での認知も高まり、当初の想定を上回る出演者、出店者から参加希望をいただき、開催することができた。また、大学及び高校との連携も強化され、2026年には敬愛高校との共同開催のご提案もいただいた。一方、はじめて野外会場で開催したところ、当日の運営体制が十分でなく、事故は発生しなかったが、多くの混乱が発生し、野外会場での実施体制の強化が課題となった。		

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>本年はイベントの規模を拡大し、東大阪大学の野外特設会場をお借りして開催し、来場者数及び出店者数ともに過去最大規模のイベントとなった。</p> <p>また、東大阪大学側の協力体制が強化されたほか、地域内でのポスターの掲示など準備段階からかかわる人が増えたことにより、地域のつながりを創出していくという当団体の目的に向かって前進した。</p> <p>また、当団体の内部でもイベントを含めた活動の自立に向けた意識が高まり、継続的な検討が進み始めた。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>本年は、助成金を受けることができたことから、野外の特設会場で開催することができた。これによりそれまでの屋内会場では参加いただくことが難しかった団体等の方に参加いただくことができた。</p>

6. 活動内容がわかる写真



7. 次年度の事業継続 (いずれかに○をつけてください)		
<input checked="" type="radio"/> 助成金を活用して 継続して実施する	<input type="radio"/> 助成金を活用せずに 継続して実施する	<input type="radio"/> 実施しない
8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、助成金を活用しない理由、事業を継続しない理由		
<p>2026年について、東大阪大学敬愛高校との共同開催によって、学生及び地域との連携を更に強化し、地域のつながりの創造を進めていきます。</p> <p>また、昨年の経験を踏まえ、当日の運営については一部アルバイトスタッフを活用し、事故が発生することがないように十分な体制で臨みます。</p>		
9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等 (助成金を活用して事業を継続する場合のみ)		
<p>はなのわ文化祭については、はなの輪文化を体験していただく。また、私たちの一年間の活動の発表の場として位置づけ、イベント単体での収支ではなく、年間を通じた活動によって、本イベントの費用を捻出するという発想で、活動の幅を広げることとしています。</p>		

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和7年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	子どもの居場所づくり～孤育てを防ぎ地域と繋ぐ～				
団体名	やどり木				
助成区分	チャンレジ部門 (<input type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input checked="" type="checkbox"/> 3回目)				
助成金 交付決定額	620000 円	助成金 確定額	480,557 円	総事業費	843,289 円

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	<p>“地域”が家庭と学校以外の第3の居場所として、長期休みに子ども居場所づくりを開催することで、学年や校区を超えた異年齢交流の場を設ける。</p> <p>そして、活動を知ってもらうきっかけとして、交流会や講座やリユース会を開催し、孤独な子育てを防ぎ、人と街とのつながりをつくる。</p>	
2. 事業の内容	<p>小中学生の居場所作りの活動では、保護者の負担の軽減を行うために、希望者には食育講座を開催し、お昼ご飯（給食）の調理や配膳をこどもたちも一緒に行なった。</p> <p>また、今年度は、西地区でも活動ができたことで、認知度も上がってきたように感じられた。ママスタッフの人材育成も少しずつステップアップ中。</p>	
3. 事業評価	項 目	評 価 点 不十分 ←————→ 十分
	① 実施時期（日時）はよかったか	1 ② 3
	② 実施場所はよかったか	1 2 ③
	③プログラムの内容はよかったか、事業目的と整合性がとれていたか	1 2 ③
	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	1 ② 3
	⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	1 ② 3
	⑥企画・準備はうまくいったか	1 2 ③
	⑦広報はよかったか	① 2 3
	⑧予算は妥当だったか	① 2 3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で 不十分だった理由 十分にできた理由	<p>例年通り、多くの活動が継続できたため、開催時期や人数、プログラムに関しては十分だった。</p> <p>①～⑧の評価で 不十分だった理由 十分にできた理由</p> <p>広報においては、市民まつりであるふれあい祭りに参加したくさんの方に知ってもらえるよう考えていたが、出店に落選したためふれあいまつり参加できず、広報の大きなチャンスを得られなかったため、不十分だった。予算において、当初予定していたイベン会場から開催場所を変更したために、大幅に変更が生じたため、不十分だった。</p>	

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

5. 事業成果	<p>予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか</p> <p>活動については多くの参加があり、「孤独な子育てを防ぎ、人と街とのつながりをつくる」ことに対する成果も得られた。活動も5年目を迎え、ずっと継続して参加してくれるリピーターさんも年々定着していることも、大きな成果の1つである。</p> <p>今回は、子ども間のトラブルが発生したため、今一度、開催時の人数体制が当日の流れの見直しをするきっかけも予定外に得られた。</p>
	<p>予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由</p> <p>リピーターに関しては、学校向けのチラシを配布していることと、口コミでやどり木の活動を周囲に伝えてくれている方がいることが、成果をあげられた理由と考えられる。</p>

6. 活動内容がわかる写真



居場所づくり
↑食事の様子
スポーツ講座→

やどり木まつり
↑子どもスタッフによる緑日
草花遊び講座→

7. 次年度の事業継続 (いずれかに○をつけてください)		
<input checked="" type="radio"/> 助成金を活用して 継続して実施する	<input type="radio"/> 助成金を活用せずに 継続して実施する	<input type="radio"/> 実施しない
8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、助成金を活用しない理由、事業を継続しない理由		
<p>ここ数年で、居場所づくりの参加者がかなり増えきている。毎年のリピーターも増えてきており、嬉しい半面、申し込みをお断りしなければいけなくなってきている。託児所や学童のような、完全に預かるシステムでは人員が不足するために、次年度は、大人が見守り行っている、だれでも立ち寄れる場、校庭開放のような場への移行も検討中。</p> <p>新規集客、活動の広報を兼ねて、次年度は市民ふれあい祭りにも参加予定。</p>		
9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等 (助成金を活用して事業を継続する場合のみ)		
<p>来年度で、助成金の申請期間を終えるため、助成金に頼らず活動が継続できるよう、活動資金の仕組み化を検討中。主に、イベント出店の際に協力金を募ったり、スポンサーを探す予定。</p> <p>また、活動をずっと、続けられるよう、地域の公民館など経費を抑えて活動できる場所も新たに探す予定。地域や自治会などで、居場所を作りたいが、一から立ち上げスタートすることに躊躇しているような団体を探し、連携できようもしたいと考えている。</p>		

※5～9を1枚に収めるように記載してください。

令和7年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	① アサカツ！学んで食べよう！朝のよりはうす（朝の居場所づくり） ② 地域や社会を学ぶ！ワクワク学ぶ夏のよりはうす（東大阪アリーナの活用） ③ 企業と学校をつなぐ！みんなが先生夢の協育プロジェクト（起業家の街東大阪）				
団体名	NPO法人よりはうす				
助成区分	チャレンジ部門 （ <input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目 ）				
助成金 交付決定額	700,000	助成金 確定額	698,044	総事業費	1,335,727

1. 事業の目的 地域課題・社会背景等	<p>(1) 共働きやシングル世帯などのこどもを対象に、暖かい朝食の提供による食育と健全育成、保護者への子育て支援に繋げる。</p> <p>(2) 夏季休業期間中に、こども（小学生）の居場所づくり、子育てを行う保護者の支援を目的に、地域社会との協業で「生き抜く力」の育成を図る。</p> <p>(3) 地域人材や企業による出前授業を社会教育資源として学習プログラム化し、小中学校に提供することで、「社会総掛かり」の教育体制を構築する。</p>				
2. 事業の内容	<p>(1) 週4日（平日）、午前7時～8時に、NPO法人よりはうす事務所で、元高等学校教員を講師にした、小学生へ朝食の提供、学習支援を実施する。</p> <p>(2) 令和7年7月22日（火）から8月25日（月）までの土日祝日及びお盆休み等を除く全19日間、日替わりで企業や各種団体等による体験学習（ワークショップ）の開催により、こどもの学びの場や居場所を創出する。</p> <p>(3) 企業やNPO、各種団体等が実施する出前授業等の「地域貢献活動（CSR活動等）」を学習プログラムとして登録し、小中学校での教育活動に提供する。</p>				
3. 事業評価		項目	評価点 不十分 ←————→ 十分		
		① 実施時期（日時）はよかったか	1	2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
		② 実施場所はよかったか	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	3
		③プログラムの内容はよかったか、事業目的と整合性がとれていたか	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	3
	1 不十分だった 2 一定できた 3 十分だった	④受益者は意図した人たちだったか、計画通りの参加人数があったか	<input checked="" type="checkbox"/> 1	2	3
		⑤実施体制、協力・連携団体・機関はよかったか	1	2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
		⑥企画・準備はうまくいったか	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	3
		⑦広報はよかったか	<input checked="" type="checkbox"/> 1	2	3
		⑧予算は妥当だったか	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	3
4. 評価理由 ①～⑧の評価で 不十分だった理由 十分にできた理由	<ul style="list-style-type: none"> 各事業とも必要な時期に提供を行い、関係各所と連携した取り組みが実施できた。 (2) は主に公的施設を利用したが、予約の関係上、全日程同じ場所を確保することができず、会場が分散し利便性が不十分な部分があった。 事業によっては参加者の参加数が少なく、広報について周知期間・対象・エリア・媒体を十分に精査して実施する必要があったと考えられる。 				

※1～4を1枚に収めるように記載してください。

5. 事業成果

予定した成果があがったか、予定外に得られた成果はあったか

(1) 近隣小学校や地域においてチラシの配布やSNS等での積極的な広報を行ったが、利用者の獲得に至らなかったが、学校や地域でニーズ調査や宣伝活動等を行う中で、早朝預かりの期待や機運の高まりを感じることができた。

また、「春のわくわく体験教室」(令和8年3月25日～4月6日)において、早朝こどもの預かり(午前8時～9時)を実施し、9名の参加者があった。

(2) 開催期間中、日替わりで19もの企業・各種団体による体験活動(ワークショップ)を開催し、延べ236人のこどもの参加者があり、社会総掛かりの教育体制の構築に向けた実践的活動となった。

(3) 本事業はで、9企業・団体29の学習プログラムを共同開発し、試験的活用として、令和7年12月4日に東大阪市立盾津東中学校の中学1年生を対象に、企業・団体計10企業等を招へいし、延べ334人の生徒が5・6時間目を活用し職業講話プログラムを受講するなど、キャリア教育の機会を提供できた。

予定した成果があげられた理由、あげられなかった理由

(1) 団体の知名度や早朝預かり後に小学校への通学の必要があり、事業提供範囲の狭さ(会場に隣接する近隣小学校のみ)という問題が参加への障壁と考えられる。

一方で、(2)の事業では多くの参加者を獲得でき、夏季休業期間中における企画した事業への保護者やこどもへのニーズへのマッチングが一定できたと考えている。

(3)は、多くの企業等の参画や、中学校で多くの生徒への学びの機会提供ができ反応も良かったことから、今後は一般公募も行き、事業提供を行いたい。

6. 活動内容がわかる写真



7. 次年度の事業継続 (いずれかに○をつけてください)

助成金を活用して
継続して実施する

助成金を活用せずに
継続して実施する

実施しない

8. 継続する場合の次年度の改善点や工夫、助成金を活用しない理由、事業を継続しない理由

次年度については、助成金活用事業としては、令和7年度に実施した(1)～(3)事業の要素を集約し、夏季休業中及春季休業中における、早朝預かり(午前8時～)の要素を含めつつ、こどもの居場所づくりを継続実施する。なお、(3)事業については、企業等の地域貢献活動をベースにすることから事業コストが低いことから、助成金を活用せずに団体の独自取組・財源支出として継続実施する。

9. 中長期的な見通し、財政面で自立していくための工夫等 (助成金を活用して事業を継続する場合のみ)

夏季及び春季におけるこどもの居場所づくりについて、事業の特性上、企業等の協力も得ながら団体SNSや各種広報手段の積極的な活用や効果的な事業ブランディングにより、キャリア教育をベースにした特徴的なこどもの居場所づくりという特性を積極的に打ち出し、参加者を効果的に集めることで助成金に頼らない収支面の安定化を図りたい。

※5～9を1枚に収めるように記載してください。